

昭和17年4月1日（水）

恩塚、日田保険主事来。同氏に請うて、保険即時払いに付き実地に指導され、御蔭で愛子分保険金即時払いの手続きを、指導し賜る。御蔭で681, 200の保険金を頂く。恩塚氏の弟君、大学内臨時教員養成所に入学、学資補給方相談あり。令閨と一緒に帰宅せしも、令閨、日田守実間の自動車に動揺激しく酔ふて、二三日滞在の要あるに至りしとあり。此日窓口混雑。切手代金丈けでも、百円を超ゆ。

昭和17年4月2日（木）

朝より快晴。切手請求に14銭代金計数、相違事故あり。一旦販る。不足額を持行き帰れば、1時なり。此の日、丸坊露漸く手に入る。午後4時より茶話会開催を通告す。伊勢さん4時より退局なるを以て、都合よしと思ひ誘導せしに、4時を過ぎて何れにか行き、姿を表はさず。為替係も一緒に連行せんとしたるも、又甚だ喜ばず。仍って、余単独菓子持参、出掛けて行く。二階宿直室に設備しあり。局長、木下、実畑、竹折、和方、大津、清瀬、及び電信部員にて一時間懇談。茶屋さん森田さん呼び出して来て呉れと談判し、後刻来局。十分間計り懇談して辞去す。菓子一袋を頂く。清瀬さん風呂敷に詰めて下さる。斯くて上首尾にて辞去し得たり。其の代わり仕事が大分遅る。保険金中より参百円を切手資金に繰り入れ、請求す。切手1銭及び5銭在庫少なく、1銭は5厘二枚に、後者は2銭3銭と交付を開始さる。坊や幾十日振りに、湯に連れ行かる。昨、磨り餅の如くほうれん草を磨り、卵を入れて与ふ。盃に一二杯やる。今日より牛乳三本を注文す。配給所にてキャラメルも得られたり。

昭和17年4月3日（金）

神武天皇祭。快晴。9時、母堂ミワさん、森田さんと大貞公園桜花満開に付き、観賞に出向さる。宮前さんも行かる。森田さん寿司など調理し、夏蜜柑など用意して行かる。宮前さんも重詰めに馳走を調製、小学校校庭にて食べらる。正午前飯られ、森田さん等遅れて到着。ミワさん横田に雛祭りの禮とあって、5円の切れ地を求め来らる。10時、眼鏡屋付近に大阪中央出、友枝宛て小包行囊一ヶ、自動車より振り落としあるを、通知に依り局内に持込み置きたるに、運転手等受取りに来る。坊の食物、調製す。

昭和17年4月4日（土）

快晴。切手受取に行きたる際、午後1時局長室に入り、主事等猶喋り居る際、前日の御禮を述ぶ。伊勢さん昨日、ミワさん停車場に行きたる後に来局。餅幾箇か持参、一緒に大貞に行かる。此の日、年度末慰労金112円交付あり。夫々分配を了す。4時頃より曇り初む。6時半ミワさん、折角の請いに任せ、女学校桜花を見に行く。今将に満開。夕方湯に坊を連れらる。道子より手紙。智子梯子段より墜落、顔面を怪我し、医師に二針縫合の話。午後久子来たり。其の手紙を遣る。

昭和17年4月5日（日）

降雨。表通り掃除せず。概要表下調べに没頭。午後5時近く、巖来たり。藤岡より達夫危篤、すぐこいへんの電報を示して、久子を遣るか否やを尋ねて来たりしもの。直に出発せしめよと注意す。6時の汽車に間に合うよう出

発を促す。併せて、福岡に巖より送るべき預り金20円を渡す。然るに、6時20分頃久子来る。ミワさん停車場に待つこと久し。久子福岡に持行くべき、巖より受取りし余の20円は、其の儘忘れて来たりし由にて、余立替えやる。斯くて、7時の急行にて出発す。賃金2円55銭、急行料1,65合計4,20。ミワさん汽車賃として2円遣る。巖は子供が淋しく留守して居るを懸念し、久子の出発まで居らず自宅。此日、朝の間のみ降雨せしも、後歇み、曇天の儘日暮る。此の雨にて花色漸く褪せたり。

昭和17年4月6日（月）

快晴。切手請求受取共、余行く。1銭切手及び5銭切手品切れ。5銭は、2銭3銭取混ぜ交付さる。1銭は5厘。然るに其の5厘も品切れとなる。頃日坊に、米より煮沸してかゆを造り、ほうれん草を磨鉢で磨りて、それに味の素を加え味噌を入れ、卵を半熟程度にして呉ることにし居る。此日も之を造る。切手類、元資に参百円を加算す。

昭和17年4月7日（火）

朝曇り、九時頃より快晴。切手請求現金払込みはミワさん行かれ、現物受取りは余行く。1時頃まで、切手保管倉庫にて受授し居れり。此日も同断。勝恵ちゃんの誕生日、赤飯配らる。セルロイド鯉一も附属せり。これは湯に浮かるもの。赤飯は糯米混入しあり。日中、戸外は可なり熱し。室内は猶、火気に親しむ。

昭和17年4月8日（水）

快晴。切手請求なし。ミワさん朝より具合悪し。坊の誕生日、赤飯炊かる。5時過ぎ、余坊を連れ、巖方まで赤

飯重箱二重を持行く。販りに重箱を預け、坊を守りし来る。大分目方重く、可なり腕が痛い程なりし。午前中写真を撮りに、ミワさん坊を連れ行かる。巖曰く、25円速達にて福岡に送金せりと。5円は智子の治療代と認む。

昭和17年4月9日（木）

快晴。戸外は寧ろ暑し。坊七度あるも元気。毫も衰ひず。此日、蒲鉾福岡3東京7発送。久子遂に不帰。5銭切手久しく品切れの処、到着の通知あり。朝1000、後刻2000請求、皆交付あり。

昭和17年4月10日（金）

朝まで雨、夜明けより曇り。巖来たり。昨夜11時まで久子来るかと待居りしも、遂に不來。今朝より悦子幼稚園行きにて、家が留守になる。余、何と挨拶してよいかを知らず。只自分の苦悩のみを訴え、相手の立場を顧みず、徒に相手を責むべきでもなかりと云うに止まり、猶自分よりも葉書を出そうと約し、巖の意見も其の儘書き添えて速達にて発送せり。午後7時久子来る。此の朝まで赤飯久子の為に残してありしも、腐敗の恐れあり食べて終えぬ。久子来たり。夕食を与ふ。福岡土産として、余の為にパンを作り持来る。智子は勿論、自分等も口にせず、全部余の許に持ち来れる由。痛々しく、食べても旨しくない気がする。久子は昨飯塚に行きたる由なるが、風雨猛烈なりしと云う。道子より坊の為に、汽車（機関車が捲引のもの）2円近くの品。外に老人に下駄など。なかなかの心竭くしと思はれたり。巖より速達にて25円送りしは、智子の療治代と認め、10円返戻越したる由。実際は20円は秀坊分、療治料は5円となる。これでは10円

不足となる。飛んだ行違え。久子木内主事の電話にて巖を呼び出し、直自転車にて来て貰って、荷物を搬ばしむ。

昭和17年4月11日（土）

快晴。5銭印紙在庫有無を問い合わせし処、三百枚、分与すべしと云ふ。序でに葉書二千枚請求、ミワさん払込みに行き呉る。手當金銀行受取分、書留め配達を受けたり。未だ案内なき為、払渡せぬと云ふ。午後より切手受取りに行く。5銭印紙在庫なく九拜。請求500に対し300漸く交付するを得たり。

昭和17年4月12日（日）

久子、和博悦子を連れて隣組の運動会に参加。朝来曇り、9時頃より降雨。午後より霽れる。竹屋女将、和傘多数を持ち、一汽車後れて出発。我が家にも立寄らる。傘は久子が一本持ち行き、それにて間に合うと見て好意を謝し、今年は入らざりし。酒も大量あり、味飯も豊富に作られありし由。曩に弁当屋の別邸を借るつもりなりしに、留守番が勝手に他人に貸しあり。如何とも詮方なく別に店の二階を借りて、飲めや歌ひの酒宴を催したる由。桜は地に委（まか）し、徒に盛時の名残りに数片の花弁を留めて、俤を偲はしむるのみと。3時頃帰る。老人も運動会に参加せしめられたりと。

昭和17年4月13日（月）

快晴。朝、切手請求代金払込みを兼ね、手當を銀行より請取りにミワさん行かる。然るに、其の金額は百円過剰なり。直にミワさんに返戻せしめたり。手當の分配を了して切手請求に行き、更に商工会議所に於いて開催の、甲

種勤労所得徴税の講習に参加す。シャープペン途中に落とす。3時飯局。此の朝髭剃りす。土曜日払込み窓口の現金、50銭過剰、伊勢さんに還付す。多い分は還付したるに、自分は福を喪ふ。佐世保よりも組合費納付80円送金方、電報にて申越す。乃ち小為替にて、50と30とに区分して速達にて発送せしむ。

昭和17年4月14日（火）

曇り、少々寒し。切手請求、代金払込みはミワさん。請取り方は余行く。終日、営々として仕事に没頭するのみ。十七日まで記入洩れ。

昭和17年4月15日（水）

切手請求。毎日曇天続き、気温定まらず。

昭和17年4月16日（木）

朝来降雨。終日降る。切手請求休み。坊や小便に着物殆ど濡らし、其の都度着換えさせ、有りたけの着物を取出す。母堂火に乾かし、襦袢と共に夫々準備下さる。御蔭で夜不自由せず。炬燵も最近大将悪く、夜半まで消ゆること多し。此の夜の分は消えざりし。坊や匍匐し出る。油断するうち色々の物を喰す。頃日、林檎の汁を与ふ。

昭和17年4月17日（金）

曇り、風多く寒し。夜は火箱に火を入れ、行火にも入れる。事務室に他人思惑を外に、行火を股火し居ること、多少気の毒の憾みなきに非ざるも、此の点修養は出来不申ず。夜に入ると夏蜜柑を一つ宛て頂く。是も亦、股火の垂流か。佐世保光子より、曩の百五十円と共に借用

證書（印紙なし）送り越せり。森田さんの坊ちゃん、大声呼號遠慮会釈なし。泣き呼號し、詢に騒動敷きこと極まりなし。ミワさん5時頃より、母堂坊やを連れ湯に行かる。其の後、余は林檎を磨り汁を作る。二ヶ腐敗。内一ヶは全く食し能わず。坊やうまうまの連発にて当惑。夫れに、ウンコ数回に及ぶ。

昭和17年4月18日（土）

以降多忙に紛れ記入せず。尤も記入すべき程度の事項なし。但し此日、内地東京、名古屋、神戸に敵機の初空襲ありとの報。森久切手買いに来れる際、話す。デマに非ずやと反問すれば、ラジオで放送したるもの。デマに非ずと弁解す。それでも真を措き能わざる感あり。夕刊到着したるも、何等の記事なし。岩尾さん5円欠損す。

昭和17年4月19日（日）

福日到着せず。駅にて大朝を求め来らしむ。夕刊に既に此の事の発表あり。福日の記事多少遜色あり。昨弁当屋、赤子の誕生に常会連協力して、各1, 5を集めて品物に換えんとし、現金の俣か品物か、兎に角世話人に於いて適当に措置することとなりしもの。昨日警報、尚解けざるも、準備せしことなればとて、関係人を招待。ミワさん参加。非常の馳走振り。赤飯あり、蜜柑あり、羊羹あり。酒も豊富と云ふ。土産物まで貰って来らる。大朝の記事を見て、昨夕刊より既に空襲を受けたる旨、敢えて隠蔽することなく掲上あり。福日に此の事なし。如何にも不思議に思はる。

昭和17年4月20日（月）

一昨欠損金の半額を負担し、岩尾さんに渡す。臈（やが）て余出勤して、岩尾氏、余に返付し来る。余之を返す。朝より降雨、午後も夕方近く歇む。風温かなり。炬燵を止む。坊や鼻風邪、咳容易に止まず。

昭和17年4月21日（火）

晴れ。豊浦より4銭一万余の注文あり。午後払戻しむ。此日金庫不開。午後に及び、業者を招致して開函せしむと。1時頃迄かかる。豊浦より4銭切手、1万6千買受けに来る。恰度よき、日直に請求に行く（了解を得て）。3時半電話すれば、直ぐ来いとあり。余即ち急ぎ至れば、現金の払込みを急がしめたるなりと。請求書は未だ手許に来たらずと。自分で為替に至り、請求書を受取り来る。余一旦帰局、後刻再度受取りに赴く。にんにく市場に嚮（ひび）き居らずと。巖余を訪ふ後の咄し。人を敬服する如き、否巖と対座し、兎角相手に協調の雅量なし。此日も静江の人作りを知りつつ、一度も非難がましき態度に出てたることなしと前提して、愛子を篇する態度を批難すれば憤然帰宅す。要は、道子より一人は早く引取って呉れと来る、どうすればよいかとの問題らし。

4銭切手六千百枚、買受け請求あり。恰度金庫が明かぬので、鍵を取出せぬとありて、正午過ぎまで騒いで居る際、電話すれば奥家さん、今払込めば出して上げると云ふから、一千余円を持参して西田氏に面接して、直接手交す。本日出るかどうかわからんと云ふ。此の時業者をして、金庫を開かしめつつあり。三時頃再び本局に至る。これから出すのだと云ふ。一応帰局。4時頃行き、品物

を受取り来る。岩尾さんの欠損金5円の問題は、夫れだけ多く渡したるものにして、其の人の好意より返戻し呉れたり。正直な人なるかなと感心せり。従って2円50銭は退局の際、返付し呉れたり。

昭和17年4月22日（水）

晴れ。切手請求。1銭切手1400、要求交付を受く。曩に七百と限定されたるもの。味噌揚げを造る。蒜（にんにく）品切れ。曩に求め置きしもの多少あり。夫れを入れて朝方作る。昨夜うどん頂き、今朝残りを頂く。

昭和17年4月23日（木）

晴れ。切手請求はミワさん行かる。余坊やを寝かす。此の朝、巖来たり。秀樹下痢、預かること出来ぬ、引取り呉れとのこと。二十円送金、速達にて発送。医師にかけて呉れるよう注意せりと云ふ。然るに此日、余宛ての葉書は、秀樹百日に写真撮りたいから、白絹の着物送って呉れとあり。巖の咄と大変な遙遠（ようえん）あり。其の葉書を封じ巖に送る。前田さん五円欠損せり。坊やに林檎汁、及び林檎の薄皮を剥き磨りても与ふ。

昭和17年4月24日（金）

晴れ。久子来たり。白絹、小包に梱包し砂糖を入れて贈る。送料30、余負担す。澄子より巖宛ての葉書、余に示し呉る。夫れには、秀樹、余引き取る約束実行せぬは何故かとあり。久子が小包発送に刺戟せられ、ミワさんも蒲鋒二本と菓子とを発送す。小包料30。昨、小倉局集配員と称する人物、小倉に電話かけ25銭の料金に対し、10銭持合わせ金を貸せと云ふ。小倉局にては相手にせ

ず。駅前巡査派出所に赴き、金策を談じ巡査と再び来たり。其の巡査が通話料立替え本署に連れ行きしが、本日再び来たり。警察にて一泊、盛んに警察の馬鹿と云ふ。四日市停留所前のポストに、選挙関係郵便物を投函したるが、後にて気付きたるは不良とあり。重要文書入れ置きたるもの、取出す工夫はなきやと云ふ。余、四日市局長（代理）を電話に喚び、取出させたり。此の間、電話主事を喚び至急接続方取計らふ等、斡旋是れ勗（つと）む。本局に数回行く。多額印紙買受けの為。森田さん、坊や連れ午後1時15分発にて帰幸。例に依り、蒲鋒三本送らる。

昭和17年4月25日（土）

靖国神社臨時大祭。報国債10円20枚、合同より請求あり。逓信局に電報請求せしも、昨日まで不来。合同には今朝までに都合すべしと挨拶し、本局を問合わせ、鶴居に尋ね、柿坂に電話するも、何れもなしと云ふ。柿坂にては今朝までに返事すべし、各局に照会して見るとのこと。今朝に至り、195円ありとのこと故、合同に其の旨話し、承諾を得て、直ちに柿坂に汽車にて、受取りにミワさん行くこととなり。午後零時40分発にて行かる。然るに二時頃、本局より債券到着の報あり。不取敢、本局に駆け付け開披するに、報国は貯債と代わり来る。かくて報国債は、依然として柿坂分を期待することとなり。4時25分到着の汽車にて、ミワさん持取り合同に渡す。合同にては開業拾数年の記念日、祝賀会開催の日とあり。此日、坊やを守りす。小便近く、着衣を汚すこと数あり。

昭和17年4月26日（日）

晴れ。漸く温かになり、毛皮の上衣午後脱ぎ棄つ。ミワさん、貯債を売捌くべく出かけらる。二軒にて全部売竭くせる由。経費本日到着。連合協会の方に印頼（いんか）代金30円程差し引かれ、経費二百円未満。森田さん夕方来局。坊や風呂行き。林檎磨り。坊や8キロ200。風袋1疋（キロ）200、正味7疋。坊や湯に行く。

昭和17年4月27日（月）

曇り、降雨。午後切手取りに行く頃、小歇む。後、時々時雨。給料渡す。二十四日発送せしもの。仏事あり、読経す。混ぜ飯出来たり。茸、椎茸に蕨等入る。餡餅一ヶ5銭、六個入り、一人一包みづつ売るを求め来らる。国債本局より貰ひ来らる。坊や身体を摩擦しやる、汗かきたればなり。

昭和17年4月28日（火）

曇り、朝の間降雨。珍しく2700円突破の為、三分が一分となる。葉書5銭、其の他必要分請求す。母堂の部屋に鼠出て乱舞、眠ること不可能とあり。切手代、余持来。資金5円、余請求。午後雨歇みたるも、一時に過ぎず。国債一千五百円売れたり。夜常会。坊や写真出来たり。

昭和17年4月29日（水）

天長節。曇り、後快晴。法規の訂正をなす。竹屋の身内のものにて教育訓練中。即死したる者に対し、準戦死を以て遇し、半旗を掲げて英霊を迎ふ。夜、通夜に行か。萩の餅数个求め来られ、夕飯時に頒分与せらる。

昭和17年4月30日（木）

晴れ、後曇り。数日前より切手百分の一となる。夕食時に、森田さんより貰ひし甘藷を蒸す。切手請求。四時前投票に公会堂に赴く。髭剃りす。公会堂には投票者寥々たるものあり。候補者の選択に県公報を通読して、文章の構成なり主張なりを吟味し、山口馬城次を適任と認めたり。